聖城公論

日曜夕刊

石川縣江沼郡大聖寺町字鷹匠町　聖城公論社
發行兼編輯兼印刷人　小林三郎
金澤市殿町九番地　印刷所　活文堂
（定價一部五錢）

五徳　タニト

## 公論

### 政治季節と對支問題

（一）

いよ〳〵政治季節となつた。天下は擧げて議會とそして政黨の動きに注意の眼を放つ頃となつた。近年、外交問題が內閣の致命傷となることの多いのは特に注意すべき現象である。外交問題とは云ふまでもなく支那問題の事である。若槻內閣は財政問題で倒れたやうに云ふけど實は幣原外交の行詰まつた結果であることは申すまでもない。今日、永井柳太郎氏が如何に辯護しても民政黨の對支外交はあの當時もはや行詰まつてゐた。

（二）

次ぎに出たのが田中內閣だ。此の內閣は對支外交のやり直しをやらんが爲に出たのであるが組閣後今日までの經過を見るに必ずしも成功と云ふことは出來ない。出兵して大に彈壓政策を執つてみたものゝ今日となつては撤兵の口實を得ることに汲々としてゐる。東三省の問題と云ひ全支那に於ける排日運動の勃發と云ひ決して成功と云ふわけには參らない。否、失敗の程度に於ては民政、政友、兩方とも大した差違はない。それなら誰が出て外交の衝に當つたら成功するであらうか。吾人に云はしむれば誰が出ても國民の心理狀態が今日のやうでは駄目である。

（三）

いつたい外交と云ふものは何も霞ケ關に限つたことではない。國力を背景とし國民の熾烈なる民族的精神に俟つにあらざれば到底滿足なる成果を收むることは出來ない。今日の國民大多數の傾向は日本的より國際的に進まんとしつゝあるやうに看取される。日清戰爭時代に於ける清國に對する感情、日露戰爭時代に於ける露國に對する感情、そんなものは到底今日これを見ることは出來ない。南京事件が勃發しても濟南事件が起つても國民は割合に冷淡ではなかつたか。此の反響は直に時の內閣の對支外交に影響するものと見なければならぬ。だから吾人は歷代の內閣をして支那問題で蹉躓せしむるものは日本國民それ自體であると信ずる。

## 錦城世系考に就て

東京　太田才次郎

（一）

錦城世系考は、宮本謙吾君が樫田家に保存せらるゝ諸記錄について取調べられたのであるから、私達の家の所傳と大なる相違のあらう筈はないが、その中に叙述の足らぬ點もある樣に思ふし、また私達として少しく申開きをしたい點もある樣に思ひますので、こゝに筆を執ることに致しました。但し錦城の傳に關する事については、目下起草中の傳記に讓りまして、こゝには申しません。

（二）

祖先芝山監物の事につきましては、嘗て芝山監物考といふものを書いて置きましたが、監物が豐臣秀吉公に仕へたのは確かな事です。しかし私共の家では、織田信長公にも仕へて一萬石を食んだといふ事を、代々言ひ傳へて居ます。思ふに、初めは大阪の光佐上人に屬して居ましたが、天正六年十二月、荒木村重が謀叛を企てた時、安部仁右衞門と申合せて信長公に屬したらしく思はれるのである。この事は、織田軍記にも本朝通鑑にもありまして、兩書ともに芝山源內と記してありますが、この源內こそ監物であらうと思はれるのであります。左すれば、監物が信長公に仕へて一萬石を食んだといふ家世の言ひ傳へと吻合する事になるのであります。

（三）

世系考に、太田玄悅も能勢求伯も共に罪あつて追放せられたとか藩を脫したとか記されてありますが、これが何の爲めであつたかは判然致しません。たとへ分つて居るにしても、私の方とは緣の遠い一族の事であるから書かぬが宜しいかと思ふ。錦城の祖父橋本一閑が、大聖寺藩に仕へて七十石を食んで居たが、事に坐し、遠流に處せられ、江沼領大日山下の眞砂村に於て歿したといふ事を世系考に記された。これは一應その事實を記しませう。

（四）

一閑は晩年隱居して、橋本氏の男子平藏に家督を相續させました。然るにある日、平藏、水を汲まんとしたが、井戸端の氷りついて居た爲め、足を踏みすべらして倒れ伏し、痛く腰骨を打つたのが原となつて死んだのであつた。その頃、一閑の隣家に某（これは大聖寺町にその子孫があつては姓名をあらはに書きたくありません）といふ人が居て、兼ねて一閑と地境の事について爭つて居ましたがこの事が起つたので、これは一閑が平藏を打殺したに違ひないと藩主に讒訴した。これによつて、一閑は寃罪を蒙つて遠流に處されたのである。勿論この時、一閑は十分言ひ開きをしたに相違ありまゝんが、相手の某は御目附役で、しかも始めから遺恨を晴らさんとの覺悟でやつた事であるから、とうとう言ひ開きが立たなかつた事と思ひます。

（五）

錦城の父玄覺が、二男三男を棄てゝ町人百姓にした事に就て、宮本君が疑念を起されたやうですが誠に御尤もの事ですから、一應その事を申し上げませう。最初玄覺が、外科醫の樫田道覺に懇望されて養子にまゐりました時、道覺の子は女子ばかりであつた。然るにその後善格といふ一男子が出來たので、玄覺は、これを順養子にして樫田の家を嗣がせたいとの義心を起した。それ故、出生の女子は皆養育しましたけれど、男子は生れると直ぐに皆民家に棄てゝ仕舞つた。これ畢竟玄覺が樫田家に對して義理を立てたので、美談といつても善いでせう。然るに善格は成長の後、藩主から、別に外科醫として家を立てるやうにとの命が下つたので、そこで玄覺は始めて一男子を養育して家を嗣がせる事になりました。これが卽ち錦城の兄北岸で御座います。これで、玄覺が二男三男等を町人や百姓に棄てた譯が、ほゞ御分りになつた事と思ひます。

（六）

錦城の妻と申せば、私の曾祖母になるのです。錦城がその惡口を書いた手紙が樫田家に保存されてあつたのを、今は大聖寺の某氏の手に歸したといふ事を聞きました。これは樫田家の相續者がい惡と思ひます。かりにも家庭の內情を書いてあるものを、他人に見せるさへ恥とすべきに、他人の手に渡して、新聞や雜誌に發表されるやうになつた事は、私達子孫としては甚だ不快とする所である。私達は、曾祖母は醫者の娘で、非常な才女であつたといふ事と、その缺點としては多少酒を好んだといふ位の事は聞いて居ますが、他には何等聞いた事はありません。錦城があの手紙を母に送つてから、直ぐに母より返事がありまして、夫婦間に於ては、互に信じ合はねばならぬ、よめについては、さらく〳〵惡いとは思はぬとの意味が長々と書いてあるので、私達は、あの手紙は、夫婦喧嘩でもした時に書いたもの位に思つて、別段曾祖母の人と爲りを惡いとも思つて居ませんが、世間の人は、世系考の記事を見て吃驚した事であらうと思ひます。

（七）

東方祖山が北岸や錦城の友人であつた事は聞いて居ます。その人が周易の事について、錦城を腐儒なりと罵つたといふ事を世系考に書いてあるが、この事は、どうでせうか。なほ能く取調べて見なければ、輕卒には信じられません。次に竹內福水の門人に河野坦郎とかいふ人があつて、非常なる錦城嫌ひで、錦城を人間のやうにはいはなかつたと世系考に書いてあります。私は大聖寺地方の事に暗いので、坦郎といふ名前も始めて承知したやうな譯ですが、坦郎が惡口を書いたものがあるのでせうか、それとも言ひ傳へに過ぎないのでせうか、若し書いたものがありまするれば、錦城傳の參考に致したいのですから、是非見せて戴きたいと思ひます。（續）

## 田家朝

杉村直樹（神戸）

朝またき田中のいほにきこゆなり
聲もゆたけき稻つきのうた

## 一語一句

**府**　れと工事の不完全の儘荒廢を辿へ通行人の足駄を[illegible]て立派やかな大街道が出來上る樂しみがある　▲勘忍袋の緒を何時迄も締めて居ることの[illegible]ることだ　▲それにしても鍛冶町のあの泥海はなんとかならぬものか　▲當町の盛場の一つを捨て任じてゐるあの街路を捨て置くのも氣がきかない　▲商工會あたりで大聖寺川から砂利があがらなか敷くことが出來ぬものだらうか　▲國道だから當局でなければ手入れすべきと云ふ理屈もあるまいに　▲今年還曆を迎へた明治二年生れのお爺さん連の明二會から金五十圓を托兒所へ寄附しの涙か　▲誤失府子金澤へ赴く車中で石川郡の政友會へ中橋御大から一萬圓の寄附があり　▲その年利六百圓餘で月刊新聞を出すと聞く　▲中橋御大老いても選擧區を想ふ　▲御提灯を持つたそこらあのかね。

大聖寺町字弓町　備前機業場　電話一四三番

聖城織物株式會社

加賀大聖寺町本町　絹織物買次業　山松商店　電話二五四番　電報（ヤマ）又ハ（ヤ）

大聖寺町字鷹匠町　兒玉機業場　耳聞山　電話第二兒玉機業場二一八番　電話一七二番

大聖寺町荒町　羽二重製造業　清水亥三郎　電話二三二番

大聖寺町山田町　錦城物產株式會社　（出張所）越中城端町　（工場）大聖寺町法華坊　電話二七番　電話一四五番　私書函第三號　電報略（キン）又ハ（キ）　電話園一二二・二二六番

大聖寺町永町　毛利機業場　電話一六七番

大聖寺町新橋　山長機業場　電話園二三番　振替口座金澤五〇七七番

# 行き惱んでゐる 錦城山買收問題

## 町民は打切りを大に希望

昨年から持越しの錦城山買收問題は、町會に於て先般決議された通り果して町當局が買收して吾等の公園として、一般に之を提供してくれるのか、または町財政窮乏の折柄、見合はすものか町民の間に多大なる疑問を以て注視されてゐた。

元來、錦城山を立案したのは現商工會の幹部にして、其の動機を爲してゐるのは大聖寺商報の懸賞論文たる『大聖寺町發展策』のそれである。時の商工會は河瀨幸太郎氏去り山口宗一氏これを承け、何等か仕事をせねば會の存在を認められざる破目に陷り居れる際であつたから、此の收支經濟を無視したる一片の空論を以て直に實行の出來得るものと爲し、輕卒にもあの錦城山買收を策したのである。而して之に冠するに御大典事業なる美名を以てし、之に依つて町民の反對運動を牽制せんとする等なか〳〵用意の周到なるを見る。

商工會と町會と尻が一緒になつてゐる事は云ふ迄もない。此の故を以て町當局は此の無謀に近き計畫に贊成し、其の買收費として二萬二千何百圓を町會の決議を經て支出することに決定した。然るに之を聞き傳へたる一部町民は之を目して町經濟を無視したる暴擧となし、町民大會を開くこと兩度に及び當町としては稀れに見る大衆運動を惹起するなどの事もあり又西村町長は會て前例なきチラシを撒布して町民一般に聲明する處ありたる等、洵に近來にない大衝突であつた。

斯の如き波瀾曲折を經たる買收問題も今日に至るも尙ほ實行されず、契約決定後あの山の所有者は盛んに竹林を伐採するので舊臘のボーナス町會に於て石川議員より町長に對し、竹林伐採に對し質問したる處、町長曰く

『契約後本年度內に於て約五百圓だけの伐採を許してある』

と辯明したが、其の後に於ても此の買收問題は依然として何等の進展を見せず、一體、町は買うつもりか買はぬつもりかと町民の間に疑問の種となつてゐるので、本社記者は直接、村田助役に面會し責任ある辯明を求めし處、同助役は曰く

『買收の遲延してゐるのは最初の契約に缺陷があるからだ。町當局は第三者にして所有者との買收契約は商工會が之にあたつてゐる。缺陷は面積の問題では決してない。故に其の缺陷が排除され町會決議の趣旨に合致すれば直に決議の執行をなすつもりである云々』

との話であるが、或方面より聞く處によれば買收の遲延してゐる實際上の理由は、買收個所の變更にあるものゝ如く、卽ち先般の町民大會に於て古川流月君が、登山口の無い事を指摘した爲め商工會及び町當局も狼狽し、昨年最終の町會に於て稻葉議員より此の件に就て質問ありたるに、町長の答辯に曰く

『此の問題は目下商工會をして所有主へ交渉させてゐる』

と返答ありたるが實際は中々好都合に運び居らず、今日に至るも尙ほ町當局及び商工會幹部の頭痛の種となつてゐる。

之を要するに本問題は泰山鳴動して鼠一疋の觀あり、あれほど騷いだのに拘らず今日となつては果して買收するのやら、せぬのやら不明と云ふ狀態となり最初に口を切つた商工會及びその尻馬に乘つて買收の決議をした町會のお歷々はドノ面さげて町民に相見えんとするか、商工會の如き何等公的に權威のないものは、それにてよからんも苟しくも儼然たる存在である町會が、決議の遣り場のないやうな始末となつては何の權威かあらん。心すべき事にこそだ。因に手附金は一厘も所有主に交附してないさうである。

## 五萬圓の分配

### 二十日頃からか？

永らく疑惑の中心となつてゐた八十四後援會の五萬圓は愈々預金者に配分することに決定した。之れが分配に關する具體案は其の後幹部間に於て協議中であつたが略々決定した模樣らしく十三日午後一時から元郡役所に集合し最後の決定案をつくり來る二十日頃から大聖寺町役場に於て分配事務を開始するものと見られてゐる。預金者の最高は大聖寺川水電會社であつて其他會社、町村公金等は當時缺損として何れも承認を經てあるものだから之等に對する分配率が相當問題視されてゐる。

## 商工會總會

### 十九日 勤續使用人表彰

商工會の定期總會は來る十九日午後一時から町公會堂に於て開催することに十六日の幹事會に於て決定する筈である。當日總會は事業報告、豫算決議、決算認定等あり質疑應答に於ては會員側より相當の議論が行はれるものと觀られてゐる。尙ほ引續き勤續使用人の表彰式を行ふが、會員外でも五年以上の勤續使用人のある間は表彰するから申請してもよいとのことである。被表彰者は五年以上、十年以上、十五年以上、二十年以上の三種となし表彰狀に記念品を添へて表彰すると。

## 撞球大會

### 十五日午後八時から決勝

當町字曆匠町ニコ〳〵倶樂部に於ては十三日から十五日迄の三日間新年撞球大會を開催。新權利金は七錢にして新權利四十回每に一權利得られることになつてゐて賞品は一等十五圓(商品券)から十五等迄。當日山中、山代、小松方面から多數の參加あり他地方からの出席者には汽車、電車賃の半額を支給することになつてゐる。會費は五十錢にして、決勝は十五日午後八時から行ふと云ふ。

## 女子青年新年會

大聖寺町女子青年團に於ては八日幹事會を開き來る十五日午後二時から大聖寺校女子部にて總會に兼ねて新年會を開くことに決定した。例に依つて會員諸嬢の盛澤山な餘興、福引等で賑ふことであらう。

## 學校衞生講習會

縣學校醫會本郡支會に於ては來る十九日午前十一時から元郡役所階上で金澤醫大敎授星野鐵男氏を聘し學校衞生に關する講習會を開くが講習員は郡內各小學校の敎員衞生係、看護係等である。

## 萬葉短歌會

萬葉研究會第三回短歌會は來る二十日午前十時から大新道西野方池內春梨氏のところで開催。詠草は三首十八日迄に木谷與作氏へ送付。會費五十錢當日持參にして晝食を喫し藝談を試みると云へば一般の出席を希望してゐる。

## 谷屋の移轉擴張

荒町谷屋モスリン店では從來の店舗は狹隘にして不便であると云ふので北陸企業銀行假事務所であつた元水電跡を改築擴張中であつたが此程竣工したので十四日から移轉開業をなすと。

## 紙上町議候補 (12)

### 平田 庄八君

君は私設江沼郡長の異稱されてゐる。郡制廢止後、自治會を主宰し大小十指に近き會務を統べ、少しの滯滯も見せぬ名事務家である。當町で助役の適任者を求めたなら何人と雖も先づ君に指を屈するであらう。町村制には明るいし其の上官吏上りには珍らしい圓轉滑脫の交際振りで決して人を外らさぬ先づ町議に出馬して徐に時機の來るを待つべしだ。

### 北村庄三郎君

ボロ會社の北陸印刷をして今日のやうな立派な會社に立直したのは一に君の手腕による。亞米利加もどりで利害の打算に俊敏な點は君の特長。あの緻密な頭腦と達者な算盤で町豫算を檢討せしめたら定めし町民も安心するであらう。地元の本町では大變人望もあるし若し出馬すれば必勝疑ひなしだ。加ふるに目下旭日昇天の勢ひにある山口宗一君の參謀長として大小の機務一として與からざるなしと云ふ信任振りで愈々出馬と定まれば山口御大の後援もあるだらうしそれに宣傳機關として御手のものゝ大聖寺商報があるから自ら提灯をつけて出るべし出るべし。

## 三人旅立

### 三人成功の話

數の見込みこの[illegible]に乘えをれば兄妹もをり、無論友達なんかもゐた。瓜生海軍大將に高山工學博士、今一人は大新道に二三年前迄居られて故人になられた西野氏であつたと聞く。いづれも十二三歲の年配、故郷を離れて志を千里の外に立て學者しよらずんば死すとも歸らずと、各自決心の上東京に草鞋の旅を續けられた。東海道の旅だつたらしい。

自分はこの事をその時の場合に想像してみると、なんともいえぬ味を覺えるのである。現今では少年期の[illegible]氣であるが、刻苦勉勵成功を期す意志の持合せが殆んどない。時代も違ふが商店奉公專一、飯喰學問專一では番茶の煎淵しで駄目だと思ふ。こんな事よりその時の三人のタンチの所謂紅顏少年東都行の畫圖と畫讃を偲ばずにあられない。(江守寶)

謹告

本紙儀創刊以來御愛讀を辱ふし奉銘謝候。然るに昭和第四年の初頭に於て紙面の大擴張を敢行致す事と相成り其の爲め印刷所を山中町北斗社より金澤市の活文堂に移し政治欄、經濟欄、社會欄、郷土史料欄、趣味欄、廣告欄等それぞれ擴張し內容の充實を圖り讀者諸賢の期待に背かざるやう可仕今後に於ても何卒御引立の上御愛讀を給り度偏に希上候 草々

一月十三日 聖城公論社

加賀大聖寺町字京町 山又機業株式會社 電話一二二番 分工場 法華坊分工場 電話(一六三番) 中新道分工場 電話(二一六番) 耳聞山分工場 (一六九番)

大聖寺町字仲町 奴間機業場 電話三二五番 自宅 字番場町 電話一四四番

大聖寺町耳聞山 丸一株式會社 電話(一七七番 一四七番)

大聖寺町字東田町 新山田機業場 電話七一番

大聖寺町耳聞山 リ國本機業場 電話二〇七番

大聖寺町中新道 井野上機業株式會社 電話一五五番

大聖寺町三ツ屋町 山仁織物合名會社 電話一一四九番 電報(ヤマニ)又ハ(三)

大聖寺川水電株式會社 (營業用) 電話特四五番 電話二一九番

## 三人成功の話

論友達なんかもゐた。瓜生海軍大將に高山工學博士、今一人は大新聞紙に載せをれば兄妹もをり、無數の見送人とのしに成功したと聞く、いづれも十二三歳の年配、故郷を離れて志を千里の外に立て學ぶしよらずんば死すとも歸らずと、各自決心の上東京に草鞋の旅を續けられた。東海道の旅だつたらしい。

傷してみると、なんともいえぬ味を覺えるのである。現今では少年期より意志薄弱氣であるが、刻苦勉勵成功を期す意志の持合せが殆んどない。時代も違ふが商店奉公專一、飯喰學問專一では番茶事よりその時の三人のタンチの所謂紅顔少年東都行の畫圖と畫讃を想ばずにゐられない。（江守寳）

## 閑散無爲の春市場

### 一般に軟弱氣配漲る

大聖寺織物商況（十日木曜）

初賣りは舊臘と同調の平凡な取引を以て本年織物市場の一歩を踏み出したが、扨て

△一週　を經た今週は暮よりも十丁押しの軟弱氣配一般に漲り、ぬるま湯に這入て居るが如く、買ふにしても賣手なく、賣らふにしても買手の片影すら認めず商内皆無の閑散無爲に推移しつゝある。

機屋側は好調子の暮と、初賣りとに於て手持ちを一掃してゐるとともに採算は一杯一杯に見受けられ初新甫以來ヂリ安にある濱表の持ち直しを待つの狀態で、爰許市場總じてボケ氣味であつた。

△着尺　絹時期案じ、九寸帶側地他地方押されで之れまた頗る商内薄にて一般目先當用○を期待し居れり。本週の見當は左の如くに見受けられた。

織物標準相場（產地値段）

羽二重優等（二百七八十匁附より一り三百五六十匁附）　一、二三〇
同　並品　同（二百匁より二百五六十匁附）　一、一四〇
同　優等　一、二三〇
同　並品　同　一、一四〇
友仙地優等　一、一九〇
同　並品　一、〇一〇
同　本耳　六八附　一、一一〇
紋付地絹　一、三三〇
着尺絹　一、一〇〇

## 一般見送り氣配

### 清算暮以來の新安値

大聖寺生糸商況（十日木曜）

穩健だと云ふ六十五枚の初新甫以來株式安其他の環境安とニユヨークの消費減退を見當であつた。

△反影　しヂリ安歩調を辿り來つて本日の如きは四十枚台と云ふ暮以來の新安値を現出した清算に、當地原糸市場は織物のボケ氣味を加へ寂然閑としてゐる。需要側に於ては春高氣配の暮に手當買を終へ居れば織物の新期商内の出來するか、清算の七、八十枚台盛返しを見る迄は買出動きなきものに見受けられてゐる。

着尺絹經二十一の需要は時節物だけに需要はあるが適品薄にて

△割高　にあり。一般產地高とともに見送りの現狀で標準相場も舊臘より十圓安の

生糸標準相場（十貫建）

| | | |
|---|---|---|
| 器械十七中經 | 特優 | 九六〇 |
| | 最優 | 八六〇 |
| | 優等 | 八三〇 |
| | 一等 | 八一〇 |
| | 二等 | 七九〇 |
| 同　廿一中經 | 特優 | 九五〇 |
| | 最優 | 八八〇 |
| | 優等 | 八三〇 |
| | 一等 | 八〇〇 |
| 同　十四中經 | 最優 | 八五〇 |
| | 優等 | 八三〇 |
| | 一等 | 八一〇 |
| 器械十四中緯 | 特優 | 八七〇 |
| | 最優 | 八三〇 |
| | 優等 | 八〇〇 |
| | 一等 | 七八〇 |
| | 二等 | 七六〇 |
| 同十七八中緯 | 特優 | 八一〇 |
| | 最優 | 七八〇 |
| | 優等 | 七六〇 |
| | 一等 | 七四〇 |
| 同　廿一中緯 | 優等 | 八一〇 |
| | 一等 | 七七〇 |
| | 二等 | 七三〇 |

## 織物の講演

### 工試商議員決定と共に

工業試驗場分場では今後事業の運行に就いて絹糸業者間との密接な關係を保持しますく能力を發揮すべく商議員を設置することになり、近く縣知事から本郡内絹糸業者のうちから十五、六名を委囑の筈であるが、之れが發表任命とともに商議員の初顔合せかたがた十七、八日頃製織の權威者である京都高等工藝學校長を聘し織物に關する講演會を開くべく計畫中である。

## 織物生產高

當地織物組合統計に依る昨年十二月中の本郡織物製產高は六萬六千六百六十二疋にして前年の十二月中の製產高よりも九千三百五十六疋の增產を示してゐる。内譯は左の如くである。

| 品目 | 疋數 |
|---|---|
| 羽二重 | 五五、一五七 |
| 昔平 | 三〇七 |
| 地代 | 二、四四一 |
| 壁紙 | 五五〇 |

## 聖廓情話（26）

### 淋しきもの　汝の名は

君子なり

それは今から二月も前の或晩であつた。料亭千登勢の門口を這入つてゆく二人の男があつた。一人は四十三四、もう一人は三十五六の優形の男であつた。やがて此二人は公均の繪天井で名高いあの式台に案内された。

◇

『僕等は食ひしん棒だから御馳走を澤山だしてくれ』御用を承つてあの丸々と肥えた可愛さんが引さがると、間もなく御馳走が次ぎから次ぎへと運ばれた。『女氣なしではお淋しいやうで御座いますね。誰かお酌取りを呼びませうか』

『馴染はなしね。じや一人呼んで貰はうか。靜かなのを』

◇

やがて此の座敷に現はれたのは二葉の君子であつた。此二人のお客は君子にとつては未知の人達であつた。別にお上手を云ふではなし三味線をひくではなし。たゞ默々としてお酌をするばかりであつた。二人は君子に殆ど無關心のやうに自分達ばかり語り合つた。

◇

しかし優形の男は決して君子に無關心ではなかつた。あの淋しさうな彼女の姿に少なからず心をひかされてゐた。連れの男が便所に立つた間にちよいと氣をひいてみたが、君子は知らん顔をして濟ましてゐた。

◇

それも其の筈さ。彼女にはれつきとした旦那があるもの。君子の封鎖は有名なもの。知らぬは其の男ばかりなりだ。彼女の旦那は世間周知のトーさん。すんなりとした好男子。おまけに氣前がよくて丁度軍人さんみたやうだとは君子自身のおのろけ。しかも毎月のお手當が百兩とは豪勢なもの。君子たるもの側目をふらぬのも無理はない。

◇

去年の暮から新年の初頭にかけ聖廓の賑合は格別なもの。御大禮氣分に引續いて織物が好況ときてゐるので藝妓達は引張たこの狀態。松の内の或晩、青年達の新年宴會によばれたのが小蝶、小三などと云ふ樂天組。踊れや唄えの大騷ぎの中に君子はひとり默然として座つてゐる。何を考へてゐるのか。淋しき女、汝の名は君子なり。

## 布苔の代用

### 工試の研究完成

絹織物製織に際し糊附に使用し居れる布苔は高價にして之れが代用品につき各地方とも澱粉等を應用し試驗中であるが成功せるもの尠く今尙研究中である。當地の工試分場に於ても開設以來之れにつき研究しつゝあつたが近く完成の見込みで十七、八日頃開催の工試分場商議員初顔合せ席上にて發表すべく相當自信を以て準備してゐる。本郡内一年間の布苔消費額は約十三萬圓にして右代用品が成功し實用に供せられた曉は製織業者の福音と云はねばならない。

## 業界消息

一の書家西村山秋先生に書直して貰ふわけにもゆくまい　◇新任備前組長の選擧に就いては合法的でないとか組合法規の不備とかで舊臘前組長派とおぼしき筋合から文句が出てゐたが　◇前組長にしても此の不備な法規で選ばれたのだから法理的な理窟であつたが聽手はなかつた　◇桑原織物組合書記長永年精勤の甲斐ありて前鷹匠町に家屋を新築目出度しく　◇故篠原藤平氏の記功碑は銅碑と決定　◇島先生起草の傳記も出來　◇題字の揮毫者獨山和尙の文はまだ出來ぬらしい　◇十二銀行は昭和の後を引繼いでかなり辛辣に舊債の取立をやるそうな　◇借金組の連中で弱つてゐる向もあるとの噂　◇企業銀行は大いに土木を起し特に御影の閻柱は偉觀である　◇之れに續いて十二銀行は修繕工事を起し社宅を設け内觀外觀共に面目一新　◇織物組合の玄關口は面目を一新したが看板は昔の通り　◇あれは有名なる大聖寺の書家猪俣半塘翁の書いたものだから現在聖城第

本紙儀創刊以來御愛讀を辱ふし奉銘謝候。然るに昭和第四年の初頭に於て紙面の大擴張を敢行致す事と相成り其の爲め印刷所を山中町北斗社より金澤市の活文堂に移し政治欄、經濟欄、社會欄、郷土史料欄、趣味欄、廣告欄等それぞれ擴張し内容の充實を圖り讀者諸賢の期待に背かざるやう可仕今後に於ても何卒御引立の上御愛讀を給り度偏に希上候　草々

一月十三日　聖城公論社

石川縣大聖寺町字山田町　株式會社　十二銀行支店　電話四二・二一三番　電報一三

石川縣大聖寺町字本町　株式會社　高岡銀行支店　電話園一一番

石川縣大聖寺町字本町　株式會社　加州銀行支店　電話園一六二番

石川縣大聖寺町字鍛冶町　株式會社　北陸企業銀行支店　電話二〇五番　電報ホゼ

石川縣大聖寺町字本町　株式會社　加能合同銀行支店　電話園二一一番　電報カノ

石川縣大聖寺町字京町　株式會社　福井銀行支店　電話五〇番

大聖寺町鷹匠町　玉突　ニコ〳〵倶樂部　細野常吉

大聖寺町字荒町　備前醬油釀造場　電話二〇番

石川縣大聖寺町青草町　諸帳簿印刷　タオル入一式　福村印刷所　KUKUMURA　電呼一三七番　タオル名入等の御用は是非弊所を御利用下さい

大聖寺本町新道　山岸商會　新古　筬製造修繕部　電話呼二六七番

# 博士達の禮拜

坂本忠市

イエスはヘロデ王の時、ユダヤのベツレヘムに生れ給ひしが、視よ、東の博士たちエルサレムに來りて言ふ「ユダヤ人の王として生れ給へる者は、何處に在すか。我ら東にてその星を見たれば、拜せんために來れり」ヘロデ王これを聞きて惱みまどふ、エルサレムも皆然り。王、民の祭司長、學者らを皆あつめて、キリストの何處に生るべきを問ひ質す。かれら言ふ、「ユダヤのベツレヘムなり。そは豫言者によりて、『ユダの地ベツレヘムよ、汝はユダの長等の中にていと小さきものにあらず、汝の中より一人の君いでて、わが民イスラエルを牧せん』と錄されたるなり」。ここにヘロデ密かに博士たちを招きて、星の現れし時を詳らかにし、彼らをベツレヘムに遣さんとして言ふ「往きて幼兒のことを細かにたづね、これに會はば我に告げよ。我も往きて拜せん」彼ら王の言葉を聞きて往きしに、視よ、前に東にて見し星、先だちゆきて、幼兒の在すところの上に止る。かれら星を見て、歡喜に溢れつつ家に入りて、幼兒のその母マリヤとともに在すを見、平伏して拜し、かつ寶の匣をあけて、黃金、乳香、沒藥など禮物を捧げたり。

マタイ傳二章一—十一
尙、ルカ傳二章八—二〇、ヨハネ傳一章十四 參照

時代　今から約二千年前
場所　ユダヤの都エルサレムの郊外
人　東の博士達　甲乙丙
羊飼ひ　A　B

エルサレムの宮殿は、今夕陽を受けて、燦然として輝き、夕暗はシズ〳〵と城壁にしのびよつて寄つて來る。銀のラッパの響きは宮殿の黃金色に輝いてゐるのを一つ〳〵ふるはせて、薄暗の中にしみこんで行く。

博士達三人合唱しながら登場。

（一）
「われら三人は　いくとせも
東の國の　そのはてで
み救ひ主を　待ちました。
髮もこんなに　なりました。
髭もこんなに　なりました。」

（二）
しるしの星の　み光を
はるかかなたの　大空に
あふいだ時の　喜びは
どんなであつた　ことでせう。
どんなであつた　ことでせう。」

（三）
星をたよりに　はるばると
野越え山越え　海越えて
月日かさねて　今ここに
われら三人は　つきました。
われら三人は　つきました。」

（四）
み救ひ主への　ささげもの
駱駝につんだ　この寶
黃金に乳香　沒藥を
どこでみ前に　捧げませう。
どこでみ前に　捧げませう。」

乙「さて來て見れば、この有樣、
三人とも非常に疲れてゐる樣子
そしてやや失望氣味で
甲「オヽ、とう〳〵ユダヤの都エルサレムに着きました。國を出てから幾十日、海山越えて幾百里、やう〳〵此處まで來ましたが……」

▲驛前道路は改修の手遲れと工事の不完全の儘荒天を迎へ通行人の足駄を[illegible]驚ぎ[illegible]たか行てば立派やかな大街道が出來上る樂しみがある ▲勸忍袋の緒を何時迄も締めて居ることの好きな大聖寺人よウンと締めてゐることだ ▲それにしても鍛治町のあの泥海はなんとかならぬものか ▲當町の盛場の一つをとて任じてゐるあの街路を捨てゝ置くのも氣がきかない ▲商工會あたりで大聖寺川から砂利があがらなかつたら美川からでも一貨車引いて敷くことが出來ぬものだらうか ▲國道だから當局でなければ手入れすることも出來ぬと云ふこともあるまいに ▲今年還暦を迎へた明治二年生れのお爺さん連の明二會から金五十圓を托兒所へ寄附した ▲可憐な孫達に寄する尊い老の涙か ▲誤失府子金澤へ赴く車中で石川郡の政友會へ中橋御大から一萬餘の寄附があり ▲その年利六百圓餘で月刊新聞を出すと聞く ▲中橋御大老いても選擧區を想ふ ▲御提灯を持つたそこらあたりの新聞も貰つてくる腕がないのかね。

誤府

み救ひ主は何處におはしますやら……」
丙「誰に聞いたら分るのやら……」
（暫く間）
この時羊飼ひAB合唱しながら登場。合唱を聞いて博士達、急に元氣づく

（一）
合唱「み使ひの主　なる大君
世にあれませり　我が友よ
歌ひつつ　ダビデの村に
來たりてをがめ　キリストぞ」

（二）
賤の女の　いやしかるをも
いとはでやどる　神のみ子
光より　いでし光を
來たりてをがめ　キリストぞ
甲「（合唱の（一）終ると同時に元氣な聲で）あれお聞き、あの人達のあの歌お聞き。サアーあの人達に聞きませう、み救ひ主のあはす所を！」
博士達の合唱
合唱「世人の救ひ　世の光
み救ひ主の　あれませる
所はいづこ　吾が友よ
われらに示し　告げたまえ。
われらに示し　告げ給へ。」
甲「み救ひ主は、何處でお生れなさいましたか。どうぞ、皆樣、敎えて下さいませ。」
乙「キリストのお生れなされた、ダビデの村つてどちらでございますか敎えて下さいお願ひします。」
丙「私達三人は、遠い東の國のはてから、み救ひ主をしたつて參つたものです。どうぞ、お示し下さいませ。」
羊飼ひの合唱
合唱「ダビデの村は　あれあそこ
しるしの星の　その下の
うまやの中の　馬ぶねこそ
み救ひ主の　ゆりかごぞ。
み救ひ主の　ゆりかごぞ。」
A「皆さま、よくこそお出でになりました。ダビデの村は、あれ向ふに見える、あの村です。」
B「私達も、み救ひ主を、拜んでまいりました。あの輝く星の下にある、廐の中にキリストはゐらつしやいます。馬槽の中の幼兒こそ、世の光、光よりの光、み救ひ主なる、イエス樣です。」
甲「よくこそ、敎えて下さいました。ありがとうございます。」
乙「どうも、ありがとうございました。」
丙「今から急いで、拜みにまいります。ありがとうございました。」
AB「では、ごきげんよう」
羊飼ひ歌ひながら退場

（一）
合唱「いとたかき　あめなる神に
みさかえあれ」と　ほめたたえ
こゑあげて　み使ひ歌ふ
來たりてをがめ　キリストぞ。」

（二）
うち集ひ　歡び祝え
かみのみ言葉　ひととなり
今日生れ　世に現はれぬ
來たりてをがめ　キリストぞ。」
甲「ああ、嬉しい日頃の望み、今叶ひます。さつきの疲れはどこへやら」
乙「ごらんなさい。私はすつかり元氣になりました。」
丙「私の胸は喜びに踊り、高鳴つてゐます。さあ、急いで行きませう。」
博士達歌ひながら退場
合唱「あな、よろこばし　あな嬉し
日頃ののぞみ　今かなひ
み救ひ主の　その大まへに
うちふす時は　ほど近し
いざや急ぎて　進みゆかん。」

乘合自動車
大聖寺
吉崎行
橋立行
金澤行

貸切自動車
市内並に各地行勉强致候
大聖寺驛前
鐵道局 逓信局 公認
林自動車商會
電話三一番

大聖寺町字寺町
計見醫院
電話一二〇番

大聖寺町字荒町
能勢齒科醫院

ポリタミン特約店
大聖寺町字弓町
大原愛生堂藥局
電話二〇四番

大聖寺町字弓町
那谷醫院
電話七三番

大聖寺町字馬場七拾番地
福永機業場
染色絹織物製造業
福永佳一
電話（馬場工場一四〇番 私宅大新道三六三番）
電略（フ）又ハ（フク）

大聖寺町字本町
醫師 牧野政吉
電話五八番

大聖寺町字寺町
醫師 三森定吉
電話一二七番

大聖寺町字殿町
中村清機業場
電略（ナ）又ハ（マルナカ）
電話三一三番

大聖寺町字金子
松本機業場
電話一四六番

大聖寺町字鷹匠町
外科 七五三診療所
電話三三一番

大聖寺町字仲町
醬油釀造元 堀宇八

大聖寺町字京町
塚田醫院
塚田孝一
電話七三番

大聖寺町字寺町
生糸商 黑田貞一
電話三〇三番

大聖寺町字法華坊
產科婦人科 北川醫院
電話一二九番

大聖寺町字本町
生糸商 豐之商店
豐田久之
電話三七〇番

大聖寺町字鷹匠町
小兒科內科 井上醫院
醫學士 井上耕也
電話三六〇番

大聖寺町字鷹匠町
生糸商 藤井佐太郎
電話一五七番